

Injury Alert (傷害速報)類似事例

パラフィンオイルの誤飲 (No.106 アロマディフューザーの液を誤嚥したことによる化学性肺炎の類似事例 4) ㊦

事例	基本情報	年齢：10 歳 1 か月 性別：男児 体重：49 kg
	家族構成	外国ルーツ（ブラジル系）の家庭。母方祖父、母、長男、次男、三男、四男、長女の 7 人家族。（次男から四男のどの属性に本児が属するかは確認できず）
	発達・既往歴	遺伝性疾患で知的障害あり
臨床診断名		パラフィンオイル誤飲
医 療 費		外来 9,600 円
原因対象	対象名称	ランタン用パラフィンオイル 500 mL
	入手経路 使用状況	パラフィンオイルは黄色、無臭でペットボトル容器の製品であった。キャンプのランタン用に購入し、普段は自宅倉庫で管理し、使用頻度は年 1-2 回程度であった。100 mL 程度残量があり蓋は閉まっていた。
発生状況	発生場所	自家用車内、助手席の後方
	周囲の人 周囲の環境	本児は助手席の後ろの座席におり、母は他のきょうだいを車に乗せようとしていた。
	発生年月日	2024 年 7 月 X 日（月） 午前 9 時 0 分頃
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	パラフィンオイルは普段、家の倉庫に保管しているが引越しの作業中で車に積んでいた。他の兄弟を車に乗せるために母が車から離れたところ、ペットボトル内に約 100 mL 残っていたパラフィンオイルがなくなっており、本児の服にも液体が付着していた。誤飲を考え、医療機関 A の救急外来を受診した。
医療機関受診時以降の治療経過 転帰		病院受診時のバイタルサインは、体温 37.4 度、SpO ₂ 95 % (室内気)、血圧 98/70 mmHg と安定していた。意識清明、活気良好で、呼吸障害は無かったものの咳嗽があったため、化学性肺炎の精査目的に胸部 X 線検査を施行した。胸部 X 線検査で明らかな肺炎像は無く、翌日に再診の方針とした。帰宅後に嘔吐が 2 回あったが、以降は嘔吐や咳嗽の症状なく経過し、X+1 日の胸部 X 線検査でも異常所見を認めなかったため終診、症状出現時再診とした。

キーワード

パラフィンオイル、有機化合物、誤飲、化学性肺炎

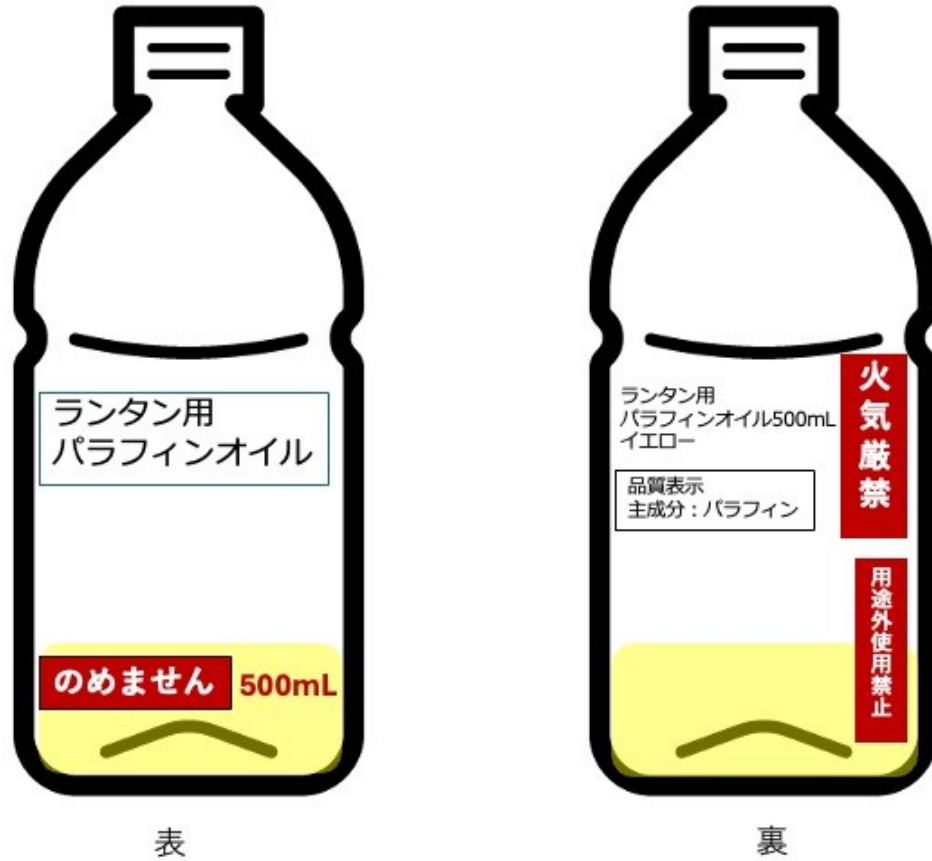


図) ペットボトル型の容器であり、内容液は黄色、無臭であった。